

BOOK GUIDE

今月のブックガイド

思い描けるか、性の権利

待望の【改訂版】の発刊！2009年にリリースされた「国際セクシュアリティ教育ガイダンス」(日本語版は2017)から約10年、2018年の改訂版を翻訳したものが本書である。包括的性教育の具体的な理念と指針を示す「ガイダンス」は、性の教育や支援にかかわる人に必携の書。訳者はいずれも学校やコミュニティで性教育を行っている実務家であり、訳語の選択も熟考されているのがわかる。丁寧な作業に心から感謝！

【改訂版】のポイントは何か。まず、ユネスコや国連合同エイズ計画(UNAIDS)、世界保健機関(WHO)等の執筆陣に、国連女性機関(UNWOMEN)等が加わったことで、包括的性教育がジェンダー平等の実現に向かうものであると明確にされた。そして「性の権利宣言」(WAS,1999)を始め、2015年の国連サミットで採択された持続可能な開発(SDGs)のための2030アジェンダを達成する方策としても位置づけられるなど、国際的な人権に関する文書が確固たる基盤となっている。

さらに、初版のガイダンスはAIDSの感染予防に重きが置かれていたのに対して、改訂版では新たに「暴力と安全確保」の枠組みが設けられ、インターネットやSNSによる性情報や暴力に関する学習課題が含まれた。また、包括的性教育は、地域の文化に適応させながら取り組むべきだが、人権侵害やリスクを高めるような文化は反省的に認識すべきであるという積極的な姿勢も示されている。性の健康に対して一貫してポジティブ、かつアクティブな指針だと感じられた。基本的人権とジェンダー平等、そして安全で健康的で肯定的な関係性を軸としたガイダンスは、相互に関連する8つのキーコンセプトについて、発達段階(年齢)別の学習目標が挙げられている。学習は「知識・



【改訂版】 国際セクシュアリティ 教育ガイダンス 科学的根拠に基づいたアプローチ

ユネスコ編
浅井春夫、良 香織、田代美江子、
福田和子、渡辺大輔 訳
明石書店
定価 2600 円+税

態度・スキル」の3領域について具体的に記されており、発達に合わせて学習者が「できるようになること」がわかる。子どもや若者の主体性が重視されており、学習者が自分自身や社会を理解することが目指される。まさに、性は個人的なものであるとともに、社会と切り離せないもの。そうしたつながりを子ども自身が理解し、よい影響を生み出していく行動がとれるようになるのが包括的性教育である。

訳書によって、国際的な研究と実践からの知見、そして、あらゆる人の性の権利を守るための取り組みが言葉として届けられた。公平な関係性、文化的構造、規範、価値、公正さ、寛容さ、尊重を表現する、健康的な対人関係、からだの保全…さて、この日本語が表すものは何だろう。意味はわかるが、それを思い描けるか。想像できても、それが実践できるか。もしかしたら、私たちはそれを「知らない」という現実を知ることから始めないといけな段階かもしれない。そうした現実とその影響を取り扱っていくことが、まさに、本ガイダンスの学習内容であろう。

包括的性教育では、「安全で、強制や暴力なしに責任をもって性的な行動選択を可能にする」行動変容が目指される。教育者が道徳的判断を教えたり、子どもや若者の行動を管理したりすることではない。〈安全〉な性的行動や性的関係が築けるようになるには、子ども自身があらゆる行動や関係性を〈安全〉に体験できなければならない。

最後に、訳者はこう述べる——包括的セクシュアリティ教育実現への挑戦は、日本における教育の基盤に人権を位置づけ、「性の権利」保障がなされる社会の構築のための挑戦だ、と。これは壮大な挑戦である。そして、排除や差別が顕在化しているコロナ禍の社会が生き延びるうえで避けられない挑戦であると、わたしは思っている。

(大阪大学大学院准教授 野坂祐子)